NEWS RELEASE

2025 年 9 月 10 日

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

新開発 7K フルサイズセンサーを搭載したデジタルシネマカメラ“EOS C50”を発売
オープンゲート記録・縦クロップ同時記録などにより柔軟で効率的な映像制作に貢献

キヤノンは、映像制作機器 CINEMA EOS SYSTEM の新製品として、機動力に優れたコンパクトボディーにさまざまな現場に対応する撮影性能・記録機能を備えたデジタルシネマカメラ“EOS C50”を 2025 年 11 月下旬に発売します。

EOS C50（「RF85mm F1.4 L VCM」装着時）

手持ちでの撮影にも対応する小型・軽量ボディー

“EOS C50”は、7K フルサイズセンサーによる印象的かつ高品位な動画撮影と高画質な静止画撮影に加え、CINEMA EOS SYSTEM 初搭載のオープンゲート記録や縦クロップ同時記録などにより、自由度の高い撮影が可能なデジタルシネマカメラです。CINEMA EOS SYSTEM の特長である豊かな階調と自然なスキントーンは継承しつつ、機動性に優れたコンパクトボディーと着脱可能なハンドルユニットによって、ショートフィルムやドキュメンタリー制作、ウェディングやプロモーションムービーなど、さまざまな映像制作ニーズに応えます。

■ オープンゲート記録・縦クロップ同時記録など多彩な記録機能を搭載

センサー全体を利用することで通常のアスペクト比より広い画角で記録が可能なオープンゲート記録※1を CINEMA EOS SYSTEM として初搭載しています。記録可能な画角が異なる 4 つのセンサーモードと、「Cinema RAW Light」や「XF-HEVC S」などの記録フォーマットを組み合わせることで、撮影シーンや要件に応じた最適な記録設定が可能です。また、全画角の映像（17：9 や 16：9）と、縦または正方形の画角にクロップした映像の同時記録にも対応し、ウェブや SNS 用の動画も効率的に撮影できます。

■ プロフェッショナルが求める映像表現を可能にする撮影性能

最大 7K60P 内部 RAW 記録やオーバーサンプリング※2 による 4K 動画記録に加え、最大 15＋ストップ※3 のダイナミックレンジと 2 段階の Base ISO（基準感度）により、低輝度部から高輝度部までノイズを抑えた撮影を実現します。また、大型ファンの搭載によって熱による影響を低減し、安定した連続撮影が可能です。さらに、「デュアルピクセル CMOS AF II」による、追従性に優れた高速・高精度、かつ自然で滑らかな AF や被写体検出のほか、動画電子手ブレ補正機能などによりプロフェッショナルな映像制作をサポートします。

■ 映像制作現場で求められる機動性・操作性・拡張性のあるカメラデザイン

フラットで直線的なデザインのカメラボディーに、同梱のハンドルユニット、別売りのリグやジンバルなどのアクセサリーを装着することでさまざまな撮影スタイルに適応しています。また、カメラグリップとハンドルユニットにズームレバーと REC ボタンを配置することで、手元での安定した操作や素早いズーム操作が可能です。さらに、マルチカメラ撮影には欠かせないタイムコード入出力端子や、高品質な音声収録が可能な XLR 端子（2 系統）などのインターフェースを搭載しています。機動力が求められる撮影現場から本格的な制作現場まで幅広い映像制作に対応します。

※1　Cinema RAW Light／XF-HEVC S 記録時のみ対応。
※2　XF-AVC／XF-HEVC S／XF-AVC S 記録時、センサーモードをフルサイズ、フレームレートを 60P／50P 以下選択時。設定したフレームレートによっては、画質に差異が生じる場合があります。
※3　センサーモードがフルサイズ時、最大 15＋ストップ。スーパー35mm 時、最大 16 ストップ。

製品名	希望小売価格	発売日
EOS C50	オープン価格	2025 年 11 月下旬

- 一般の方のお問合せ先　：キヤノンお客様相談センター　0570-07-0032（直通）
- CINEMA EOS SYSTEM ホームページ　：canon.jp/cinema-eos/

〈"EOS C50"の特長〉

1） オープンゲート記録・縦クロップ同時記録など多彩な記録機能を搭載

オープンゲート記録
※画像はイメージです。

- センサー全体を利用することで通常のアスペクト比より広い画角で記録が可能なオープンゲート記録を CINEMA EOS SYSTEM で初搭載。アナモフィックレンズを用いた撮影では、ワイドな画角をセンサー全体で記録できるため、よりダイナミックな迫力ある映像制作が可能。またファームウェアアップデートにより、「EOS C400」（2024 年 9 月発売）もオープンゲート記録（RAW／Proxy 形式のみ）に対応予定（2025 年 12 月提供予定）。
- 全画角の映像（17：9 や 16：9）と、縦または正方形の画角にクロップした映像の同時記録にも対応し、ウェブや SNS 用の動画など用途に応じた映像を効率的に撮影可能。

クロップ同時記録
※画像はイメージです。

- 「Cinema RAW Light」や放送規格準拠の MXF を採用したビデオフォーマット「XF-AVC」、MP4 ファイル形式のビデオフォーマット「XF-HEVC S／XF-AVC S」を採用。オープンゲート記録を含む 4 つのセンサーモードとこれらのフォーマットを組み合わせることで、撮影シーンや要件に応じて最適な撮影設定が可能。
- CFexpress カード（Type B）と SD メモリーカード（UHS-II 対応）のデュアルスロットを搭載。CFexpress カードに最大 7K60P で内部 RAW 記録しながら、 SD カードに XF-AVC や XF-HEVC S、XF-AVC S、Proxy データの同時記録が可能。また、それぞれのメディアに、ファイルフォーマットや解像度、カラーサンプリングなど、異なるストリームの組み合わせによる同時記録も可能。
- 最大 2K180P※1、4K120P のハイフレームレート記録※2 に対応し、スローモーション撮影が可能。

※1　フルサイズモードで 2K120P 超えのフレームレートを選択時は画角が約 12％クロップされます。
※2　「センサーモード」が「フルサイズ」で撮影フレームレートが 60P を超えるときは、センサー読み出し画素数が減少するため、モアレや偽色、ジャギーが発生する場合があります。

2） プロフェッショナルが求める映像表現を可能にする撮影性能

- 新開発の 7K フルサイズ CMOS センサーと映像エンジン「DIGIC DV 7」との連携により、最大 7K60P 内部 RAW 記録、オーバーサンプリング※1 による高画質な 4K 動画記録を実現。
- フルサイズセンサーならではの浅い被写界深度と大きなボケ味を生かした印象的な映像表現が可能。
- センサーモードがフルサイズ時は最大 15＋ストップ、Super 35mm（Crop）時は最大 16 ストップの広ダイナミックレンジを実現。
- Base ISO（基準感度）の「自動切り換え」に加え、撮影シーンの明るさに合わせて 2 段階の Base ISO をマニュアルで切り替えることでノイズを抑えた撮影が可能。
- 「デュアルピクセル CMOS AF II」を搭載し、追従性に優れた高速・高精度、かつ自然で滑らかな AF が可能。また、ディープラーニングを活用したアルゴリズムにより、動画モードでは人物と動物（犬、猫、鳥）と瞳（右目／左目）の検出が可能。これらに加えて静止画モードでは、動物（馬）、乗り物（モータースポーツカー、バイク、飛行機、鉄道）、および人物、動物、乗り物の自動切り換えが可能※2。
- 静止画撮影時において、最大有効画素数約 3250 万画素、常用最高 ISO64000、電子シャッターにて AF／AE 追従しながら最高約 40 コマ/秒※3 の高速連写が可能。

※1　XF-AVC／XF-HEVC S／XF-AVC S 記録時、センサーモードをフルサイズ、フレームレートを 60P／50P 以下選択時。設定したフレームレートによっては、画質に差異が生じる場合があります。
※2　被写体の状態によっては、検出ができない可能性があります。
※3　連続撮影速度は、被写体、撮影条件、カメラ設定、使用するバッテリーの種類や状態、使用レンズなどにより低下することがあります。詳細は取扱説明書の「詳細ガイド 静止画編」をご覧ください。サーボ AF 時に最高連続撮影速度に対応するレンズについては販売会社にお問い合わせください。被写体や撮影条件によっては、ローリングシャッター歪みが発生する場合があります。

3） 映像制作現場で求められる機動性・操作性・拡張性のあるカメラデザイン

- CINEMA EOS SYSTEM シリーズで最小・最軽量となる本体外形寸法約 142mm（幅）×95mm（奥行き）×88mm（高さ）、本体質量約 670g※を実現。着脱可能なハンドルユニットやバリアングル液晶モニターを利用することで、狭い場所や低いアングルなど、自由な位置からの撮影が可能。
- 凹凸の少ないデザインと計 7 カ所（カメラ本体 5 カ所、ハンドルユニット 2 カ所）の 1/4 インチのネジ穴により、リグ、ジンバルなどのアクセサリーの装着が可能。また、マルチアクセサリーシュー端子やハンドルユニットの XLR 端子に外部マイクを装着することにより、高品質な音声録音が可能。
- カメラ本体とハンドルユニットそれぞれに REC ボタンとズームレバーを配置。迅速かつ正確な操作が可能。
- マルチカメラ撮影には欠かせないタイムコード入出力端子や、外部機器と柔軟に接続可能な HDMI OUT 端子（Type A）などのインターフェースを搭載。
- 製品の前面・背面に吸気口を設けることで、カメラ内で発生した熱を効率よく放出。小型モデルながら高い耐久性・高信頼性を実現。

高品質な録音を可能とする XLR 端子

ハンドルユニットからの REC・ズーム操作

- 録画時に点灯するタリーランプをカメラ前面、背面、ハンドル前面の 3 カ所に設置し、録画状態を確認可能。
- ユーザー自身が必要な機能を割り当てることで撮影中にも簡単に操作が可能な 14 個のアサインボタンを搭載。

※ カメラ本体のみ。（バッテリー、SD カードを含まず、ハンドルユニット非装着時。）

4） ネットワーク機能による効率的なワークフローの実現

- 従来の CINEMA EOS SYSTEM のシネマカメラシリーズやミラーレスカメラ EOS R シリーズで対応している、動画／静止画処理、バーチャルプロダクションや VR 制作、クラウド転送、リモート接続など多数のアプリケーションやプラグインが使用可能。
- Canon Virtual Production System※1 は RF マウントの高速通信により、レンズとカメラ間で多様な光学情報をリアルタイムに取得・出力・記録することが可能なため、バーチャルプロダクションで従来必要とされていた事前のレンズキャリブレーションが不要となり、作業時間と労力を大幅に削減。レンズ交換やカメラ設定の変更が容易で、クロップ設定にも自動的に連動するため、柔軟な撮影が可能。フォーカス情報を CG に反映することで自然なボケ表現が可能となり、オートフォーカスにも対応しているため、撮影表現の幅の拡大に貢献。さらに、ズーム操作に連動した歪曲データの活用により、高精度で自然な実写と CG の合成も可能。
- 「Unreal Engine（Epic Games）」や「Adobe After Effects（Adobe）」の専用プラグイン（無償提供）を使用することでメタデータを活用した高精度な映像合成※1 が容易。
- Adobe 社が提供している Frame.io の Camera to Cloud 接続※1 に対応。「EOS C400」および「EOS C80」（2024 年 11 月発売）と共に、カメラ内部に記録したプロキシファイルを直接 Frame.io に送信することで、制作から編集工程へシームレスかつ安全に移行することが可能。
- USB ケーブル 1 本でビデオ通話やライブ配信が可能な UVC／UAC に対応。UVC は高解像度化とフレームレート 60P／50P に対応し、新たに UAC※2 にも対応。
- キヤノン独自の XC プロトコルを搭載することで、スマホ・パソコンやタブレットなどのさまざまな端末からのリモートコントロールに対応※1。IP リモートカメラも操作可能なリモートカメラコントローラー／アプリや、iPhone と iPad からカメラの状態や映像の確認や各種撮影設定が可能なアプリケーション「Canon Multi-Camera Control」に対応。ライブ映像制作をはじめ、映像制作現場において効率的なカメラオペレーションが可能。

※1　動画モードのみ対応。
※2　カメラへの内部記録はできません。

〈製品仕様について〉
製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。

https://canon.jp/biz/product/camera/pro-imaging/cinema-eos/lineup/ces-camera/c50

〈ご参考〉

1） CINEMA EOS SYSTEM のデジタルシネマカメララインアップ

キヤノンは、7K フルサイズセンサーを搭載しながら、シリーズ最軽量を実現した“EOS C50”を投入することで、CINEMA EOS SYSTEM のデジタルシネマカメララインアップを強化します。機動力が求められる報道・ライブ映像制作から、より高品位な映像が求められる映画やドラマまで、幅広い撮影シーンやニーズに対応し、映像文化の発展に貢献していきます。

製品名	マウント		
	EF	PL	RF
EOS C300 Mark III (2020年6月発売)	○	○※1	
EOS C70 (2020年11月発売)	○※2		○
EOS R5 C (2022年3月発売)	○※2		○
EOS C400 (2024年9月発売)	○※2	○※2	○
EOS C80 (2024年11月発売)	○※2	○※2	○
EOS C50（2025年11月下旬発売予定）	○※2	○※2	○

※1　別売りのマウントキットが必要です。
※2　別売りのマウントアダプターが必要です。

2）「IBC2025」への出展

2025 年 9 月 12 日（金）から 15 日（月）まで、オランダ・アムステルダムで開催される国際放送機器展「IBC2025」のキヤノンブースにおいて、本製品を展示する予定です。

3） Canon LUT Library を新設

キヤノンは、映像クリエイターのこだわりに応えるキヤノン純正の Look Up Table（以下 LUT）を、無償でダウンロードできるウェブサイトを公開しました。LUT とは、映像の色やコントラストなどを変換することができるデータが入ったファイルです。本サイトでは、全 41 種類の LUT の効果や、ワークフローを知ることもできます。さまざまな世界観の表現を可能にする豊富な LUT の提供により、クリエイターの映像表現領域の拡大に貢献します。

「Canon LUT Library」URL: https://ssw.imaging-saas.canon/color/ja/pc/index.html

4） 映像制作機器の市場動向

映像制作機器は、映画・ドラマ・ドキュメンタリーにとどまらず、企業広告、教育、ライブ配信、SNS 動画など多様な分野での活用が拡大しています。近年では、リアルタイム CG と実写撮影を融合した「バーチャルプロダクション」の導入も進み、制作現場の革新が加速しています。
また、縦型動画やオープンゲート撮影によるマルチフォーマット対応、アナモフィックレンズを用いた映画的な映像表現など、撮影手法も多様化。さらに、AI による自動編集やクラウドベースの制作環境といった技術革新が、映像制作の効率化と品質向上を後押しし、市場の成長を力強く支えています。（キヤノン調べ）

＊iPhone、iPad は Apple Inc.の商標です。
＊Adobe、Adobe After Effects、Frame.io はアメリカ合衆国およびその他の国々における Adobe（アドビ社）の商標または登録商標です。
＊その他、記載されている会社名、製品・サービス名は一般に各社の商標または、登録商標です。